

2018年“玉泉杯” 第23回九齡童卓球大会 報告書



期 日 平成30年12月21日（金）～
 平成30年12月26日（水）
場 所 中国・山東省済南市 玉泉森信大酒店

滋賀県卓球協会

2018年 “玉泉杯”

第23回九齡童卓球大会

期 日 平成 30 年 12 月 21 日 (金)～平成 30 年 12 月 26 日 (水)

場 所 中国 山東省済南市 済南玉泉森信大酒店 <http://www.yuquan.com.cn/>

参加者 団長 堀内 安宏 (080-1476-5396) 監督 山本 徹 (090-4301-6029)

通訳 周^{しゅう} 永志^{えいし} (090-8539-5188)

男子選手 石田 啓 (山卓) 石田 普 (山卓) 山元 七音 (山田卓友)

福岡 宗大 (山卓) 小林 斗和 (山卓)

女子選手 中西 知奈海 (平シニア) 川森 天詩 (山卓) 木村 天音 (山田卓友)

高田 悠花 (平シニア) 木津 桃香 (湖西暁シニア)

日 程

12 月 21 日 (金)

JR 大津駅 17 時 12 分発→京都 17 時 21 分着 17 時 30 分発特急はるか 47 号

関西空港 18 時 59 分着 搭乗手続き。

関西国際空港 21 時 45 分発 SC8088 便で済南遥牆国際空港へ。23 時 45 分着。

バスでホテルへ移動し、3 時過ぎに到着。

12 月 22 日 (土)～24 日 (月)

大会に参加 (個人戦: 予選リーグ、決勝トーナメント) 夜間練習もした。

12 月 25 日 (火)

ホテルの会場で一日交流試合。

12 月 26 日 (水)

午前中、1 時間ホテルの会場で練習。その後買い物に行き、昼食後空港へ。

済南遥牆国際空港 17 時 00 分発 SC8087 便で関西国際空港へ。20 時 45 分着

バスにより大津駅まで。大津駅に 11 時前に到着し解散。

宿泊ホテル

12/21 (金)～26 (水) 済南玉泉森信大酒店

済南, 历下区, 泺源大街 68 号 TEL +86 531-8888-8887

参加経費 (一人当たりで年齢は満年齢)

大津から関西国際空港までの運賃 11 歳以下 約 2,000 円 12 歳以上 約 4,000 円

関西空港から大津までのタクシー運賃 約 3,000 円

関西国際空港から済南遥牆国際空港までの往復航空運賃

11 歳以下 約 35,000 円 12 歳以上 約 40,000 円

現地滞在費 (5 泊分、食費、交通費) 約 18,000 円

合計 11 歳以下 約 58,000 円 12 歳以上 約 65,000 円

※参加費の徴収は、12 月 15 日 (土) 草津市立総合体育館で 9 時に集めた。

2018 年 “玉泉杯” 九 龄 童 乒 乓 球 赛

日 本 ・ 滋 賀 県 選 手 団



団 長 : HORIUCHI/YASUHIRO
堀 内 安 宏



監 督 : YAMAMOTO/TORU
山 本 徹



通 訳 : ZHOU/YONGZHI
周 永 志



ISHIDA/HIRAKU
石 田 啓



ISHIDA/AMANE
石 田 普



YAMAMOTO/NAOTO
山 元 七 音



FUKUOKA/SHUTA
福 岡 宗 大



KOBAYASHI/TOWA
小 林 斗 和



NAKANISHI/CHINAMI
中 西 知 奈 海



KAWAMORI/TENSHI
川 森 天 詩



KIDU/MOMOKA
木 津 桃 香



KIMURA/AMANE
木 村 天 音



TAKADA/YUKA
高 田 悠 花

日 本 ・ 滋 賀 県 山 卓 選 手 団



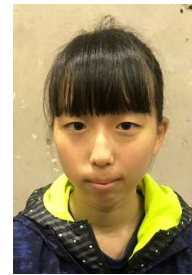
監 督 : YAMAMOTO/KEI
山 本 慶



コ ー チ : MORITA/KAZUO
森 田 一 生



FUJII/RIHO
藤 井 里 帆



NAKAYABU/MOE
中 籾 萌



KOBAYASHI/KANON
小 林 香 音



HONGO/MAKI
本 郷 真 希



FUWA/SHION
不 破 憇 温



SAITO/FUTA
齊 藤 楓 太



TOKISATO/MIZUKI
時 里 海 輝



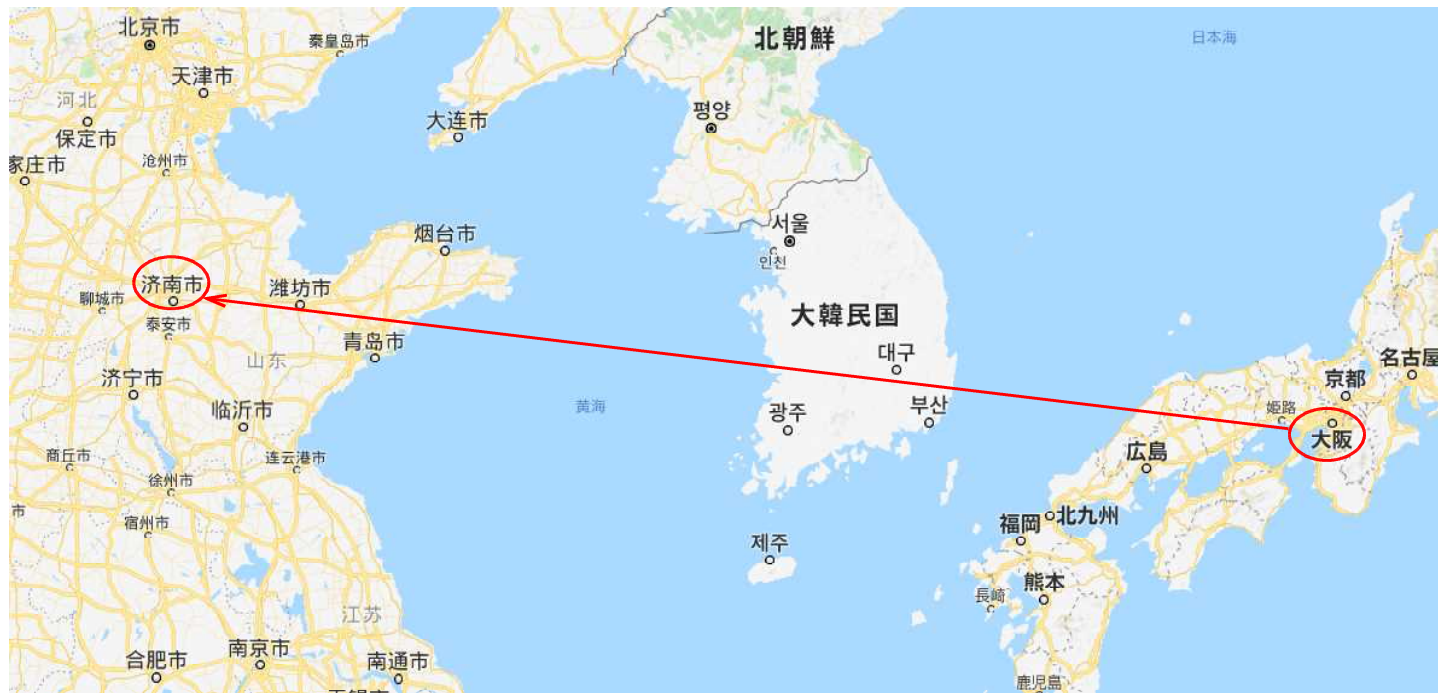
YOSITANI/TAKUMI
芳 谷 拓 海

大津から

関西国際空港



日本から中国済南市



済南遥墙国際空港からホテル



宿泊ホテル



济南市涿源大街68号 电话: 0531-8888 8887



<http://www.yuquan.com.cn/>



試合会場（ホテル内）





連絡事項

※集合日時と場所

平成 30 年 12 月 21 日（金）午後 17 時

JR 大津駅の改札口へ集合



※服装

特に指定はしませんが、動きやすいトレーニングウェアをお願いします。

※持ち物

パスポート、常備薬、ラケット、シューズ、ユニフォーム、練習球、水筒
筆記用具、タオル、参加経費、その他各自でチェックして下さい。

※航空機への預け荷物及び機内への持ち込み荷物について

①受託手荷物（スーツケース・競技荷物など）

1 個 32kg、サイズは 1 個あたり縦・横・高さの和が
203cm 以内。

②機内持ち込み手荷物（小型バッグ・身の回りの品など）

1 個 10kg × 1 個 + 身の回りの品 1 個（ハンドバッグ等）

サイズは縦 55cm × 横 40cm × 高さ 20cm、かつ 3 辺の和が 115cm 以内。



※その他

①外貨両替は、関西国際空港でできます。

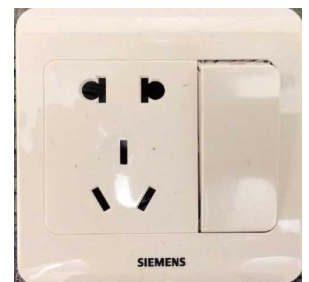
②飲料水はホテルにもペットボトルの水が用意されますが、生水は絶対飲まないこと。

③試合中の飲料水もこちらで用意します。

④ホテルの食事はバイキングですが、暴飲暴食のないように。

⑤コンセントの電圧は 220V なので注意をすること。

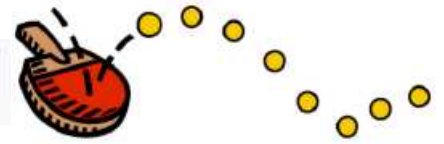
右図のような差込なので、日本式でのコンセントは
写真の上で接続が可能です。日本式は電圧が 100V な
ので変圧器・変換プラグ等が必要です。



済南市

さいなんし/チーナンし
中華人民共和国の市

中華人民共和国 山東省 済南市



済南市（さいなんし/チーナンし、中国語:済南市、英語:Jinan）は中華人民共和国山東省に位置する副省級市。山東省の西部に位置し、省都として省内の通商、政治、文化の中心としての地位を占める。市中を黄河が流れ、南には泰山が控えている。人口のほとんどは漢族であるが、満族や回族なども居住している。言語は北京語に近いが声調がひどく訛る山東方言がある。済南は北京料理のもととなった、やわらかくて塩辛い「魯菜」（山東料理）でも知られている。城内に「天下第一泉」と呼ばれる趵突泉をはじめとする「七十二名泉」と呼ばれる水量の多く美しい泉水があるため、都市の別名を「泉城」という。豊かな自然と歴史資源を持つため、国家歴史文化名城に指定されている。

便利な中国語

中国語は、シナ・チベット語族に属する言語で、中国のほかに、シンガポールなどの東南アジアや、日本、アメリカなどの世界各国にいる華僑・華人たちの間で話されている。

中国語を第一言語としている人は一般的に約12億人と言われており、かつ、第二言語としても約2億人が使用している、世界で最も多くの人口に話されている言語である。同じ中国語であっても、例えば、北京語と広州語と上海語では発音、語彙ともに大きく異なるだけでなく、文法にも違いがあるため、直接会話するのは困難であるが、共通の書面語が発達しているため、字に書けば意思疎通は容易である。

標準語は北方語の発音・語彙と近代口語小説の文法をもとに作られた「普通話」(pǔ tōnghuà)である。義務教育の中で取り入れられ、若い世代を中心に使用され、全人口の7割程度が理解する。

日本語

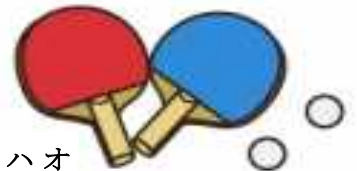
こんにちは。
おはよう！
こんばんは。
ありがとう。
どういたしまして。
すみません。ごめんなさい。
さようなら。
いいえ。
そうなんですか。
そうです。
頑張れ。
よろしくお願いします。

中国語

你好。
早安。
晚上好。
谢谢。
不客气。
对不起。
再见。
不是。
是吗
是
加油
请多关照

発音

ニイ ハオ
ツアオ アン
ワン シャン ハオ
シエイ シエイ
ボウ カー チイ
トイ プウ チイ
ツアイ チェン
ボウ シイ
シーマ
シー
ジャイヨ
チンドウコンツアオ



Ping Pong



今回の中国遠征は、滋賀県選手団男女各 5 人ずつと山卓の選手 8 人も一緒に加わり、監督・コーチ陣も含めれば 23 人という今までにない大人数での参加となった。

1 2 月 2 1 日（金）午後 5 時に大津駅に集合し、関西空港へ向かった。一部高校生は近畿新人大大会が遅くなったため、関西空港へ直接集合することになった。午後 7 時過ぎに全員集合し、結団式をやり搭乗手続きを行った。予定通り 1 0 時前に出発し、中国済南市へと向かった。夕食をとる時間が無く何も食べないまま機内食があると思っていたが、スナック菓子が 1 つあっただけで空腹のまま済南空港に着いた。スーツケースがなかなか来なくて遅れた上に入国手続きもたくさんの人でかなり時間がかかってしまった。空港からバスでホテルへ向かって着いたのが 3 時過ぎだった。

2 2 日 8 時半から開会式なしで試合が始まったが、ホテル内に会場があり、1 4 階と 6 階の 2 会場で行われた。種目は 1 1 才男女と 1 2 歳以上男女に出場し、5 人から 7 人の予選リーグをやり、各順位 2 人ずつの決勝トーナメント、という試合方式で全て 3 ゲーム先取で行われた。1 2 歳以上の女子は今日で予選リーグが終わるため、5・6 試合行った。後は明日も予選リーグあり決勝トーナメント、ということだった。会場の横に練習する台があり、合間に練習することができた。昼食時間が 1 時間ほどあり、会場は電気も消され参加選手全員がホテルで食事を取り部屋で休んだりして午後の試合に臨んだ。午後は 5 時半頃まで試合が行われた。

2 3 日も 8 時半から予選リーグの続きと決勝トーナメントの抽選後、1 位・2 位、3 位・4 位と 2 位ごとに決勝トーナメントに別れ、トーナメントで負けても負け通しでやり、勝てば勝ち上がって試合をやる、というように各順位トーナメントでもすべて順位が出るような試合方式で、試合数はかなりこなせたと思う。また、夜は会場がホテル内ということで練習する事ができた。

2 4 日最終日で決勝トーナメントの続きが行われた。各種目上位の順位が決まる、ということで気合いのこもったいい試合が随所で見られた。中国や韓国の選手は、5 歳前後から始めている選手ばかりで、基本姿勢・技術がしっかりしており、さらにどの選手も大きな声を出し、試合を進めていた。応援するコーチや保護者も熱心で、審判のジャッジがおかしいと大声で審判に向かって抗議している光景が随所で見られた。また、試合に負けて泣いて帰ってくる選手、その場で大声で泣く選手、保護者に大声で怒られる選手などこれまでの遠征でも見られないことが多く見られた。

5 時頃には全て終わり、夜は琵琶湖国際交流大会にも来てくれた長沙市の選手と交流試合をすることができた。

2 5 日の午前中は韓国チームと交流試合をすることができ、入賞した選手にも勝ったりいい試合をすることができ、いい経験になったと思います。午後からは、地元の済南市の選手と交流試合を 4 時半まですることができ、たくさん試合ができました。

2 6 日は午前中 1 時間練習し、その後近くのショッピングセンターへ行って買い物をすることができました。帰って昼食後 1 時半に集合し、2 時にホテルからバスに乗って済南空港へ向った。3 時頃着き、3 時半から搭乗手続きをしたが、一部充電器とかカイロを持っていたためチェックされ、なかなか手続きができず全員揃うのにギリギリの時間になっ

てしまった。5時に出発し、予定通り9時前に関西空港に着いた。それからバスで大津駅まで向かいほぼ予定通り11時前に到着できた。

今回の遠征では、予選リーグ、決勝トーナメントと試合数が多く、交流試合などもたくさんできいろんな選手と対戦することができたと思います。そこで感じた中国選手や韓国選手との差を今後どう縮めていくか、課題はたくさん見つかったと思うので今後の練習でぜひ活かして行ってほしいと思います。

特に差を感じたのは一つは体力です。9歳以下の小さい選手でも身体のバランスが良く、全身を使って振り切っても崩れることなく連続に打つことができる点、また速いピッチに対してもしっかりついていける点などは見習うものがあると思う。技術ばかりではなく、そうした体力もしっかり鍛えているからできるものだと思う。

二つ目は闘争心、相手になんとしてでも勝つ、という強い信念を持ち続けて戦う気持ちを上位選手は常に持っていたことです。今回は試合中大きな声を出し、気合いを入れてやる選手が多かったと思います。一球をも無駄にしない集中力は大人も顔負けの試合運びでした。そして、試合で負けて泣いて帰ってくる選手を多く見かけました。これも一つ一つの試合にかける思いの大きさを感じます。

今回参加した選手の中で、果たして何人2024年の滋賀国体で活躍するために頑張るんだ、という気持ちを持ってできたか、厳しいようだが目的をしっかり自覚し、卓球だけでなく普段の生活面からも今回の遠征で改めて確認できたと思うので、次回選ばれた選手は、しっかりとした覚悟を持って臨んでほしいと思います。

最終成績

1 1才女子（25名参加）

6位	木村	天音
13位	川森	天詩
20位	木津	桃香

1 1才男子（51名参加）

20位	石田	啓
26位	石田	普
30位	山元	七音

1 2才以上女子（27名参加）

17位	中西	知奈海
21位	中籾	萌
23位	藤井	里帆
25位	高田	悠花
26位	小林	香音
27位	本郷	真希

1 2才以上男子（86名参加）

26位	齊藤	楓太
65位	芳谷	拓海
72位	小林	斗和
73位	福岡	宗大
79位	不破	惲温
83位	時里	海輝

僕は、中国遠征に滋賀県の強化選手として行きました。だから試合でしっかり学びたいと最初目標を立てていました。

中国に行くときはすごく緊張して上手く試合できるかなと思っていたけど、友達がたくさん声をかけてくれたり、コーチのみなさんも話を聞いてくださったので、心配する気持ちがどんどん消えていって楽しく中国に行けました。

次は怒られたことです。僕は、ランニングの時に朝の7時ちょうどに着いてしまい、みんなを待たせてしまいました。あと、夜遅くまで起きてうるさくしてしまいました。鍵を2回外から開けられない状態にしてしまって、コーチや友達にたくさん迷惑をかけてしまったけど、このようなことは絶対してはいけないけど、怒ってもらったおかげでたくさん自分を見直せたり、メリハリをつけられました。だからこのようなことが起こらないようにこれからもメリハリをつけて行動するという事を心掛けていきたいです。

次は、試合のことです。僕は、予選リーグで1勝もできずに終わってしまいました。そして、5・6位の決勝トーナメントでも負けてしまいました。だけど、敗者戦があると聞いて頑張ろうと気持ちを切り替えて敗者戦にのぞみました。そして、僕はいい試合ができて敗者戦で全勝することができて、今まで上手くいかないで悩んでいたけど、中国に来て良かったし、自信を持つ事ができてうれしかったです。

今回の中国で日本とは違う環境で卓球をして、自分を見直せたり、ためになる事などをたくさん学べました。なのでこれからの自分に結びつけるように学んだ事を卓球で活かせるよう努力して、国体でいい成績が出せるようにこれからも日々頑張ります。

中国遠征

木村 天音

私は、中国遠征に行かせてもらってたくさんの事を学びました。一つ目は、みんなサーブを五種類以上持っていた事です。とっても手首の力が強くてすごいなと思いました。二つ目は、トイレのペーパーがない事です。初めに会場のトイレに行ったときにペーパーがなくて、とてもビックリしました。三つ目は、とても動きが速い事です。私が、左右、前後に振っても逆に私が左右に振られることが多かったです。四つ目は、ドライブが相手がとても正確に入っていることが多い事です。私はまだ完璧にドライブができていないので頑張りたいです。五つ目は、中国の選手や韓国の選手は、ネットやエッジがあっても「よし！次、次」と思って頑張れる事がすごいなと思いました。六つ目は、中国や韓国の選手は、自分の点の取り方を知っていたことです。中国の白思文選手は、横回転サーブをバックにして私がバックドライブした球をラリーに持って行くのが得意そうでした。私も自分の点の取り方を知って、試合の大事なときにそれを出せたらいいなと思いました。七つ目は、会話のことです。中国の人としゃべりたくてもしゃべれないのは、とても残念ですがジェスチャーやちょっとした英語や中国語でしゃべれるのはとてもうれしかったです。中国遠征に行かしてもらって、学んだ事がこのようにたくさんあります。だから、これを試合や練習に活かしてもっともっと強くなって、大きな大会で優勝したいです。また、今回負けた選手に次は勝てるように頑張りたいです。今回の遠征を参考にして練習を頑張りたいです。また外国に行ける機会があったら行きたいです。

私が中国遠征でいろいろ学んだことがあります。

一つ目は、ドライブの回転量です。日本人でもかかっている人もいればかかっていない人もいますが、中国や韓国の人ほとんどがかかっていました。

二つ目は、ブロックです。日本人はできる人が少ないですが、中国人や韓国人はできる人が多いし、よく入ってきます。そこが日本人と中国人、韓国人の違いだと思いました。

三つ目は、ツッツキ合いが少ないところです。私達がサーブを切ってもドライブ、チキータ、払いなどの攻撃をしてきました。やはり、サーブが切れてなかったのか、それともやはり、ドライブが切れているのかと試合中に思っていたことです。

四つ目は、ラバーです。私は、裏・裏のラバーの人ばかりだと思っていたのですが、そうではありませんでした。裏を使っている人もいましたが。表などの異質ラバーを使っている人もいました。

五つ目は、ラケットです。ラケットは、中国式ペンホルダーとシェイクハンドラケットを使っていました。一つ疑問に思ったのは、日本では中国式ペンホルダーを使っているのに対し、中国では中国式ペンホルダーを使っているのを見かけましたが、日本式ペンホルダーを使っているのは見ませんでした。

私が気付いたことは、やることの内容ではなく、サーブとレシーブを重点的にやること。その次に自分の苦手なところや、やり方を意識してやることを大切に、日本の練習で中国で学んだことを活かし、これからの練習でやっていきたいと思いました。

玉泉杯に行かしてもらって

石田 普

僕の玉泉杯の反省は2つあって、一つ目は、サーブが台から出て全部打たれてしまったということです。僕は、ブロックができなくてかなりの点数を取られてしまいました。中国や韓国の選手は、きっちりサーブも短く、高くもないから相手がツッツキで返してきたボールをきっちりドライブで点を取ってきたから、サーブを長く出してはダメだと思いました。その点で僕がこれからどうしていくかというと、ナックルサーブでもいいから短く、低く出せるようにしたいです。二つ目は、コンディションです。玉泉森信大酒店はコンディションがすごく良かったので、暖房もついていたのでオーバーミスがすごく多かったのですが、そこで調節することができませんでした。だからかなり下がってプレーしたらフォアの表の王子健選手にはあっさり負けてしまいました。上手い人はその辺の調節が上手くできるからビッグプレーが生まれるのだと思いました。僕も調節ができる選手になりたいです。僕が他に学んだことは、他人の気持ちを考えて行動することです。あまり自分の正しいと思った道を進みすぎると、色々なことが起きるからもうちょっとその辺を見直しをしようと思いました。そして、良かったところは、7-2から7-8まで追い上げられた時に、がっかりしていたらセットの間に森田コーチに「ミスしても下を向いていたらあかんで」と言われました。その時に僕は、「自分は無意識に下を向いていたんだ。チャレンジしているのだから失敗してもがっかりする必要がない。」と感じました。そして、次のセットはミスしても「チャレンジ」を繰り返すと簡単に勝つことができました。その後に、森田コーチに「ミスしても下を向かなかったところが良かった。」と言ってもらいました。僕はその点が成長したと思いました。ありがとうございました。

僕は、12月21日から26日まで中国の済南市に遠征に行かせてもらって、まずは臨機応変に対応することが大切だと改めて感じました。僕は、5月にも上海市に行かせてもらっていたけど、その時は何も食べれなくて体調を崩してしまうということはなかったけど、また違う意味で臨機応変に対応することの大切さを学べたと思います。例えば、今回は台が低くてボールが軽かったので、オーバーミスがとて多かったです。しかし、それは5日間も打っていると少しずつ慣れていかなければなりません。また、日本と中国の時差は、中国からみてマイナス1時間ですが、その時差にも慣れていかなければなりません。このように、臨機応変に対応していかなければならないものはいっぱいあるので、これから自分のためにも臨機応変に対応する力をつけたいです。

もう一つ、僕が感じたことは、日本人と中国人のパワーの違いです。中国人や韓国人のドライブは、ラケットの面が台と平行になるくらいまで抑えないと飛んで行ってしまいます。だから、日本の人はパワーがない分、先にドライブをかけて戻りを速くして次に備えないといけないと思いました。

この中国遠征に行かせてもらって、僕は中国人の技術を盗めたことが一番うれしいです。僕は、12月24日に少し早めに部屋を出て、早めに始まった試合を見ていました。そこで4種類ぐらいの技術を盗みました。また、見た試合だけではなく、実際に試合をして実感した技術を盗みました。これらはほとんど滋賀県の人がやっていないことなので、自分が一番乗りするという気持ちで、実行していきたいです。

今回の中国遠征に行かせてもらって感じたことや、盗んだ技術を実行して、次に活かせるようにしたいです。お世話になりました。

中国遠征で学んだこと

時里 海輝

僕がこの中国遠征を通して良かったことは、みんな試合をしている時に応援していたことです。応援は励ますこともできるし、勇気づけられることもできるから、みんなが応援していて良かったと思います。もう一つ良かったことは、みんな集団で行動していたことです。僕もちゃんと違うところに行く時ついていけたので良かったです。悪かったことは、夜遅くまで起きていて、次の日のマラソンの集まる時間に遅れてしまいました。もう一つは、滋賀県代表で来ているのに、試合へのやる気が違ったりしてちゃんと試合に挑めていなかったもので、どんな試合でもしっかりとやる気を持って挑みたいです。感じたことは、相手のやる気です。フットワークやボールの回転や点を取ったときに出す声を聞いて、相手がどんだけ集中してあきらめないで練習をしていることがわかりました。僕がこの中国遠征で学んだことは、あきらめないで集中して練習することです。あと、上手くなりたいという気持ちを持ってやることです。なので練習するときは、しっかり集中してやりたいです。自分のやる気が勝利につながるんだなと思います。僕は、「小さな努力を少しずつ積み重ねることが成功への近道」という言葉を忘れずに卓球を続けていきたいです。

中国遠征を振り返って

木津 桃香

私が今回、中国遠征に行かせてもらって学んだことは二つあります。

一つ目は、中国人や韓国人は積極的な人が多いということです。私が試合をしたときに、

ほとんどが相手に先にドライブなどの攻撃を打たれて得点されていました。また、レシーブから回り込んだり、サーブを払ったりと、思い切ったプレーも多かったです。今、振り返ると、サーブはほとんどバック側に出していたので、フォア側に出すなど、改良できる場所があったなと反省しています。

二つ目は、球の回転です。とくに、中国人のサーブは分かりにくかったです。上回転だと思って払ったらネットに引っかかり、下回転だと思ってツツキをしたら、オーバーするか、浮いて強打されました。でも、そのくらいサーブ練習をしているんだと思い感心しました。また、ツツキラリーをしていると、球が浮いてしまいます。私は、中国人選手はとても上手で球の回転もかかっていると思っていました。もちろん、とても回転がかかっている人もいました。でも、みんながみんな回転がかかっているという事じゃないということを知りました。

私が学んだことは、卓球のことだけではなく、日本と中国の違いも学びました。

まず環境のことです。空港に着いたときも、朝にホテルの窓から外を見たときも向こうの方は白くて見えませんでした。その空気の汚さは予想以上でした。

次に中国語のことです。私が泊まった部屋の水がなくなったときに、フロントへ水をもらいに行きました。フロントにいる中国人に、「ウォータープリーズ」と言っても通じず、スマホを使って通訳しても通じなくて、ジェスチャーをしたら伝わったので良かったです。けれど、部屋に戻って中国語がしゃべれたらなあと後悔しました。また、別の場面でもジェスチャーで伝わりました。後悔したけれど、中国語を勉強してみたいとも思ったので、もし次に中国に行く機会があれば、使ってみたいです。

今回の遠征は初めてで、緊張しましたが楽しかったです。中国人や韓国人と試合をして反省点が多かったのもっと練習して強くなりたいです。さらに、国体に向けて、こういう遠征や強化練習を行っているという自覚を持ち、練習するともっといいと思うので、頑張りたいです。

中国遠征

小林 香音

私は、この遠征に行こうと思った理由は五つあります。

一つ目は、約六日間の長い間日本を離れ、中国の日本より卓球の盛んな環境で卓球が今よりもっと上手くなりたいと思ったからです。二つ目の理由は、今まで卓球を続けていて中国の強さと自分の強さとの差を知って目標をしっかりとするためです。三つ目の理由は、自分の強さは中国とどれくらいレベルが違うのかを知りたかったからです。四つ目の理由は、一年前に中国遠征に行ったときは、まだ弱かったときだったので、それから一年間練習を頑張ってどれくらい強くなったのか知るためです。五つ目の理由は、中国の食べ物や、生活や、人柄などに親しみたかったからです。このような思いでこの中国遠征に参加しようと思いました。

中国に到着したのは日付が変わった頃で、ホテルで時計を見たら3時でした。試合は2日から3日間して、韓国からも来ている人もいました。ホテルで試合をやったので日本ではないので驚きました。試合は7回やって、そこから順位を決めていきました。残りの2日間は練習試合をしました。試合をして国によってかけ声や喜び方が違うなと思いました。また、ペン型やツブの人もいて、あまりいないイメージだったので驚きました。

6日間を振る帰ると、自分がもっと直さないと行けないところが多く出てきました。特に、足が動かないところがすごく狙われていました。他にもしっかりと返せているのにコースがいつも甘くてミドルに行ってしまうということに気がつきました。そのボールを毎回狙われていたのでしっかり直していきたいと思います。この遠征で周りの人と協力する大切さを学び、目標をしっかりと見つけられました。

中国遠征

小林 斗和

僕は、今年の十二月に中国遠征に行き思ったことが三つあります。

一つ目がとても良い経験になったということです。理由は、親と一緒に海外に行ったことはあったけど、子供だけで親とは離れて海外に行ったことは一回だけで、とても緊張していたけれど、他の人に全部まかせず自分でも行動を起こすことができたので良かったです。また、中国遠征に行き、中国の試合に出たり韓国の人とも交流試合をして思ったことは、一発で決めようとせず回転をしっかりとかけてきて強いボールを打っても戻りが速く、とても上手でたくさんのことを学びました。僕も学んだことを今後の練習や試合に活かしていこうと思います。さらに、卓球以外のことでも色々なことがあったけれどももしっかり対処できたので良かったです。

二つ目は、とても楽しかったということです。理由は、旅行ではなく自分が好きな卓球で中国に行けたからです。また、その他にも普段から仲の良い仲間と一緒に中国に行けたのと、日本ではできない体験ができたからです。

三つ目は、反省点です。一つ目は、夜の練習をした後にみんなで集まり騒いでしまったことです。また、他にもルームキーを部屋に置いて行ってしまったたり、試合でボールが入らず態度が良くないことがありました。また、集合時間ギリギリに来てしまったたり、これからは時間をしっかり守り、自分が今何をしたらいいかを考えて、周りの人などに迷惑を掛けないようにしていきたいと思いました。

最後に、この中国遠征で卓球の技術や他にも色々なことを学びました。なので今回の中国遠征を活かして今後の生活や卓球につなげていきたいと思います。また、今年は中国に人や韓国の人にまったく勝てなかったので来年は行ったときにはたくさん勝てるようにしたいです。

玉泉杯 九齡童卓球大会に参加して

川森 天詩

私は、この大会に出場する前に実は父親と約束をしていました。それは、この大会で優勝することでした。なぜなら前回の韓国遠征十一才以下の部で、私のライバルであり目標であった山本真愛ちゃんが優勝していたからです。また、この中国遠征の直前にあった、東京選手権予選で、バンビの部以来約4年振りに真愛ちゃんに勝ち優勝できたことや、今回は真愛ちゃんが参加できなかったことから、滋賀県強化選手として真愛ちゃんの分まで頑張るつもりで挑みました。しかし、予選リーグから韓国遠征で準優勝の中国選手など、強い選手が複数いました。私は何とか頑張ろうと粘り、韓国で準優勝の選手にはストレートで勝ちましたが、他の選手に敗れたりしてしまっ、7人中3人が同じ勝ち点で並びましたが、結局予選敗退で厳しい現実を目の当たりにして、真愛ちゃんの凄さを実感しました。

中国選手のサーブは自分の攻撃がしやすいようにするためなのか、イメージよりも切れていませんが、3球目攻撃は必ず先に仕掛けてくるだけでなく、抜こうとしてきます。私は、カウンター攻撃が得意なので合わせようとするのですが、ドライブを打つ時に一瞬のためがありコースが読みづらいです。さらに、ラリーに持ち込んだ時の緩急の付け方が上手でタイミングを崩され、その結果ミスになるか、甘く返球してしまうことになってしまいます。私はパワーとスピードで押し切る卓球になりがちなので、中国選手のようにラリー中に相手のタイミングを崩すような、緩急を使ったボールを出せないといけないことに気付かされました。また、韓国の人との練習試合では、今大会で準優勝した選手とも対戦しましたが、フルセットの接戦で勝ちました。こんな選手に勝てるのになぜ勝ち残れなかったのかと自分でも思いますが、韓国の選手は中国の選手と違いサーブやツッツキが非常に切れている的確に入れてきます。しかし、ドライブで攻撃は型がありコースが読めるのです。また、中国の選手と違いラリーが直線的で回転よりスピードで攻めてきましたが、私にとっては非常にやりやすく感じました。韓国の選手と対戦して改めて直線的な卓球だけでは勝ち残れないことがよくわかりました。

私は、県の強化選手として3度目の海外遠征をさせていただきましたが、行く度に課題が増えていくようです。堀内先生をはじめコーチの方々に貴重な機会を与えていただいたことにいつも感謝しています。ありがとうございました。お疲れ様でした。

中国遠征

藤井 里帆

今回、中国遠征に参加させていただきました。私にとってこれが人生で初となる中国の生活であり、言葉や食べ物をはじめとする文化の違いに戸惑い、大変なことも多くありました。

遠征の活動の中心は試合でした。遠征二日目から三日目にかけて予選リーグを行い四日目は決勝トーナメントがありました。試合を見ていると、一つ一つのプレーが勝敗を左右する緊迫した試合ばかりで、その中で繰り出された数々の技術を目の当たりにし、中国選手の技術レベルの高さを強く感じました。

相手は、年下の中学生だったと思いますが、基本がしっかりしていて、ミスが少なかったと感じました。試合を通して私が一番すごいと思ったことは、中国選手の試合後半の勝負強さです。競った場面になると今までと違ったサーブ、レシーブをしてきたり、きっちりチャンスボールを決めてきます。自分も基本をしっかりと身につけ、競った場面で一本しっかり取れるように練習していく必要があると思いました。

また、中国選手を見ていると、それぞれの長所を活かしたプレーがたくさんあって、自分らしさを大切にしているのだなと思いました。

この中国遠征では、自分の短所や甘さがたくさん見つかりました。それを自分の課題とし、日々の練習に励んでいきたいと思っています。

また、集団生活をする上で、一人一人の意識、行動に責任があるということに改めて気付かされました。

卓球の技術だけでなく、集団生活の中での学びがあった遠征でした。この遠征での経験を活かし、今後につなげたいと思います。

今回の遠征で学んだことは3つある。

1つは卓球に関して、もう1つは海外でのコミュニケーションについて、そして最後の1つは人間関係に関してだ。

卓球に関して学んだことは、相手選手に強打させないことと、コンパクトに回転を掛けてラリーをしなければいけないこと。遠征の前半は、ストップが台から出て強打されたり、相手のループドライブの回転を抑えきれずにオーバーミスすることが多かった。同格や格上の選手に対してこれらのミスが出ると、使う技術や作戦の選択肢が極端に減ったり、精神的に不利な状況に陥ってしまう。短いボールをしっかりと相手の台でツーバウンドさせ、回転を抑え込むことができるようになることが課題だとわかった。遠征の中盤や終盤は、コーチから教わった打点の速いストップやコンパクトなスイングで回転を掛けて返す打法を練習し、試合でも使った。これらの技術が上手くいったポイントは、自分が有利な状態でラリーに持ち込めたり相手のミスが出たりしたりして、得点に繋がることも多かった。日本でも繰り返し練習しようと思う。

今回の遠征では、海外選手や社会人とコミュニケーションをとるという貴重な経験が came。そんな中で、いくつかの発見があった。まず英語がほとんど通じない。遠征前は、英語力を鍛えるチャンスが来たと思っていたのだが、鍛えられたのはボディランゲージだった。英語も話せる選手もいたので、まったく使わないわけではなかったが、機会は少なかった。また、ボディランゲージでかなりの意思疎通が可能だった。社会に出れば、中国の方と仕事をするということもあると思うので、将来的には中国語を勉強しようと思う。

現地で何かトラブルが起こるかもしれないと遠征前から考えてはいたが、そこから人間関係が拗れるとは考えていなかった。自分は数少ない高校生だったこともあり、悩みを持った小中学生にどうしたらいいかと聞かれることがあったが、まず何が問題なのかがわからず、しっかりとした対処や助言ができなかった。コーチや先生からは、面倒を見るのは最低限でいいと言われたが、どれが最低限なのかすら判断できなかった。他の高校生達とも話し合ったが結局結論が出ず、夜中に寝ているコーチを起こして何とかしてもらうことになってしまった。もう少し何かできたはずだ。次の時にはこの経験を活かしてより良い判断ができればと思う。

中国遠征を終えて

中 簾 萌

私は今回初めて中国遠征に参加させてもらいました。日本との練習環境の違いや、技術的な面などでたくさん学ぶことができた六日間でした。まず私が中国で試合をして初めに思ったことは、日本の人と比べて試合の展開がスムーズで、回転量が多かったことです。普段よりも相手のドライブが返しやすく、ラリーにいくまでに自分がミスしてしまって点を取られてしまう場面が多かったと思います。また、中国の人達は9-9やデュースの場面でしっかり点を取っていけることが多かったように思います。細かいミスが少なく自分の得意な展開で試合を進められていて、自分も見習っていきたくて思いました。逆に自分が普段強く下回転をかけたツッツキが中国の人にも通用するということもわかりました。そして、メンタル面でも成長できたと思います。あまり睡眠時間が取れないなかでの試合や、夜の練習はとても大変でしたが、その中でも集中して試合や練習を行えていたかなと

思います。また、自分とは違う年齢の子達と寝食を共にして、体調が悪くなる子がいたり、夜寝られなかったり、揉めてしまう子がいたりなど、年齢が違い人数が多いことからこそ起きることも多かったと思います。そんな中で他の人と協力したり、助け合うことの大切さを学べたと思います。

今回の遠征を通して、新に自分の不得意なところやたりないところを改めて見つめ直すことができました。それをこれからの練習や試合、遠征などで克服してもっと強くなれるように努力していきたいと思います。

第23回九齡卓球大会に参加して

山元 七音

僕は、第23回九齡卓球大会に参加しました。前回は行った大会では一勝しかできなくて中国の卓球の強さがよくわかりました。

一日目は予選で4人と試合をしました。一勝三敗でした。一人目は、バックハンドが強い子で、動かしたり動かされたりしていた中で、ループをしてからカウンターされていました。二人目は、フォアハンドのループがとてめにかかっている、それをカウンターしてから大きい展開に持っていきました。三人目はラリーでパワー負けして負けてしまいました。ループを止めたなら前で強く打たれてしまい取れませんでした。自分がループドライブをスマッシュぎみに打たれ、後ろに下がってしまいました。四人目の人は、後ろにすぐ下がってくれたけど、後ろから打ったドライブがすごく上手くて、取れてもう一度打たれてしまいました。五人目の人は、バックハンドが表ラバーでやりずらくて、自分のミスで相手に点数を上げてしまいました。六人目の人は、自分のミスでも少なく相手にすぐ点数をあげない試合ができました。七人目の人は、ツッツキに回転が少なくドライブミスが多く負けました。八人目の人もツッツキに回転がなく、サーブも回転が少なく浮いたところを打たれてしまいました。九人目の人も表ラバーで相手がツッツキしたのをツッツキで返していったところを打たれてしまいました。

僕は、中国に行ってもっとバックハンドの威力を強くしたいと思いました。この経験を活かして練習を頑張っていきます。

中国遠征

中西 知奈海

私は、4回目の海外遠征に行かせていただきました。今回は日本選手団の人数も多かったり、試合の日数も多かったりしました。私は、団体戦がなかったことで、少しモチベーションが下がりましたが、個人戦だけに集中することができたので良かったと思います。今回は山卓選手団と滋賀県：日本選手団と一緒にいくことで人数が多くなり、興奮してしまって調子に乗ったところがありました。私はまだ日本：滋賀県選手団としての代表の自覚が足りないと振り返って思いました。このことを活かして、国体強化選手として頑張ります。

私は、中国遠征に行かせていただいていくつか気付いたことがあります。まず一つ目は、みんな強い人は体格が大きくてがっちりしていました。足の太ももや、ふくらはぎの周りに筋肉がすごくついていて、フットワークやトレーニングをたくさんしているのだなと見て感じました。

二つ目は、みんな当たり前のように回転がかかっていることです。小さい女の子でもサ

ーブやドライブがかかっていました。私はまだドライブの回転がかかっていないので、そこを見習って私も回転を掛ける練習をしていきたいです。

私は、今回の中国遠征に行かせていただいて、学んだことがたくさんありました。その学んだことをこれから成長していく中で活かしていきたいです。

中国遠征を終えて

芳谷 拓海

今回の中国遠征に参加した経緯については、後輩が二年前に参加していて、本人から絶対に上手くなる、と聞いていたからでした。実際に行ってみて、やはり参加して得るものは大いに合ったと思います。しかし、今回の旅路は大変厳しいものでした。まず、中国に旅立つその日に近畿大会があり、一回戦で早くも負けおまけに長時間会場で待たなければなりません。そこから空港に移動し、中国の空港を出たのは現地時間の二時でした。結局ホテルに着き、就寝は四時で二時間しか寝られません。そこでその朝、山本徹コーチがこのようなお話をして下さいました。「昔の選手は、海外遠征で時差による睡眠不足というハンディキャップを背負いながら戦っていたんだ。だからそう思って戦いなさい」と。この言葉に鼓舞され、五日間の遠征に取り組みました。けれども、意志はあってもなかなか勝ち得えることはできません。その時僕は、試合で何をしたらいいかわからなくなっていました。そこで森田先生が、「自分のプレースタイルを定めよ」という言葉を授けて下さいました。この言葉を胸に試合をしたのですが、それを掴むのに三日を費やしてしまいました。四日目に様になってきたところで、また森田先生が「プレーに意図を持たせよ」とおっしゃって下さいました。そこで実践しようとしたのですが、コツのようなものを掴むには時間がまったく足りませんでした。

最後に森田先生には、プレーに意図を持たせるために自分のパターンをできるだけ多く作れ、と言うこれからの指針を示して下さいました。そして、五日間を通して試合の中でしかできるようにならないことがあると知り、それを掴むことができました。この遠征を支えて下さった先生方や親に感謝したいです。



宣言しよう、フェアプレイ。

宣言しよう。
全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。
仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。
約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを
もっと楽しいものにしてくれる。
日々の生活を
もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、
今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。
フェアプレイの誓いを。



「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンで、
フェアプレイの輪を広げ、日本をもっと元気に!

あなたもはじめの一歩を、まずはホームページで。

[フェアプレイ宣言](#)

[検索](#)

泉城广场

